

はしがき

■ 編集の趣旨

巷間をにぎわした、改訂「学習指導要領」による新教科書で学ぶ高校生・受験生用として、期待される発展学習に応えるべく、小社では新しい『発展30日完成シリーズ』を企画し、順次刊行してまいります。

編集にあたっては、小社版薄物シリーズの長所はすべて採り入れ、良問の精選と、詳しくて誰にでもわかる解答を心掛けました。

本書は、このシリーズの一冊として、ことばの基礎力を養うことを目指して作成しました。高校一年生を主な対象としましたが、基礎を確実に身につけたいと考える二年生以上にも適します。

■ 本書の特長

一、本書は二五二の慣用句、一七五のことわざ、七七の故事・成語、一三二の四字熟語を取り上げ、それぞれ「よく使われるもの」「重要なもの」「知っておきたいもの」の三段階に分けて効率よく学習できるように編集しました。

二、慣用句、ことわざ、故事・成語、四字熟語それぞれについて、単にその形を記憶するだけでなく、その読み方、意味、使い方が身につけられるよう工夫しました。

三、右に加え、よく使われる同訓異字、同音異義語、知っておきたい漢字の読み方や意味も学習できるようにしました。

四、《今日の目標》によって学習の指針を示し、《今日のチェック》で間違えやすいものの再確認をしております。

五、できてもできなくても、**ヒント**はかならず読んでください。また、独力でできなかったものは番号の上の□内にレ印をつけて一度、三度くりかえし学習してください。

六、別冊解答は答えだけでなく、特に注意すべきことを▽印で説明し、諸君の注意を喚起しました。

七、本書で学習すれば、いろいろな形式の問題を通じて慣用句、ことわざ、同訓異字、同音異義語、

故事・成語、四字熟語等を正確に使いこなす実力が身につくと確信しています。

目次

第1日	よく使われる慣用句 (一)	4	第16日	訓が二つある漢字	34
第2日	よく使われる慣用句 (二)	6	第17日	同訓異字	36
第3日	よく使われる慣用句 (三)	8	第18日	注意を要する読み方	38
第4日	よく使われる慣用句 (四)	10	第19日	熟語の読み方	40
第5日	重要な慣用句 (一)	12	第20日	漢字の意味	42
第6日	重要な慣用句 (二)	14	第21日	同音異義語	44
第7日	知っておきたい慣用句 (一)	16	第22日	誤字の訂正	46
第8日	知っておきたい慣用句 (二)	18	第23日	よく使われる故事・成語 (一)	48
第9日	よく使われることわざ (一)	20	第24日	よく使われる故事・成語 (二)	50
第10日	よく使われることわざ (二)	22	第25日	重要な故事・成語	52
第11日	よく使われることわざ (三)	24	第26日	よく使われる四字熟語 (一)	54
第12日	重要なことわざ (一)	26	第27日	よく使われる四字熟語 (二)	56
第13日	重要なことわざ (二)	28	第28日	よく使われる四字熟語 (三)	58
第14日	知っておきたいことわざ (一)	30	第29日	重要な四字熟語	60
第15日	知っておきたいことわざ (二)	32	第30日	知っておきたい四字熟語	62

月 日 曜日

《今日の目標》

われわれは日常生活で非常にたくさんさんの慣用句を使っている。今日からはよく使われる慣用句を取り上げ、その読み方、意味、使い方などを学習しよう。

問 次の「」にあてはまる慣用句を①～⑩……から選
び、太字の漢字の読み方を記せ。

- 一、
①半分も歩かないうちに「」 「なんてだらしない。」
②子供たちが帰ってしまうと、わが家は急に「」になってしまふ。
③作業中に「」 やつがあるか。
④あんな男とは「」 つもりだ。
⑤悪口を言われようと「」 さ。
①手を切る
㊦音「」 をあげる
㊧屁「」 とも思わぬ
㊨船を漕「」 ぐ
㊩火が消えたよう

- 二、
①彼は借金で「」 そうだ。
②論争に「」 ことになった。
③こんな大事な仕事で「」 「なんて思いもしなかったよ。」
④こんどの失敗で彼の「」 「だろう。」
⑤そのことについては、ぼくから「」 わけにはいかないよ。
⑥そんな「」 話はないよ。
⑦少したるんでいる。「」 「必要がある。」
⑧才能を「」 「なんていやなやつだ。」
㊰首が飛ぶ
㊱終止符「」 を打つ
㊲虫のいい
㊳口を切る
㊴首が回らない
㊵鼻にかける
㊶味噌「」 をつける
㊷活「」 をいれる

ヒント

- 一、
㊰関係をたつ。
㊱つらさにたえられず、それを声に出す。
㊲なんとも思わない。
㊳いねむりをする。
㊴急に活気がなくなりさびしくなるさま。
㊵職をやめさせられる。
㊶おわりにする。
㊷身勝手である。
㊸はじめに発言する。
㊹やりくりがつかない。
㊺じまんする。
㊻しくじる。
㊼強い調子で元氣をつける。

三、
①決勝戦のことを考えると「」 「よ。」
②今度の試験は「」 「のはむずかしい。」
③いじわるはするし、すねてばかりいて、この子には「」 「よ。」
④先生の「」 「ことばかり考えている。」
⑤彼は「」 「男だから、不利になるようなことはやらないよ。」
⑥まあ、ずいぶん少ないのね。これじゃあ「」 「ほどじゃないの。」
⑦酔って「」 「なんてみっともない。」
⑧「」 「ほど高くてびっくりした。」
⑨助けたくてももう「」 「よ。」
㊰手を焼く
㊱眼の玉が飛び出る
㊲胸が騒「」 ぐ
㊳抜け目がない
㊴雀「」 (の涙)
㊵山を張る
㊶手がな
㊷鼻を明かす
㊸管「」 (を巻く

- 四、
①「」 「男でじっとしていない。」
②「」 「悪人だ。」
③そっとしておいた方がいい。二人の争いに「」 「ことになると困るから。」
④「」 「ほどのことではないだろう。」
⑤つい「」 「ことだってあるさ。」
⑥あまりおだてないほうがいい。彼はすぐ「」 「からね。」
⑦「」 「指導してもらった。」
㊰火を付ける
㊱口が滑「」 くる
㊲人を人とも思わぬ
㊳目に角「」 (を立てる
㊴手取り足取り
㊵尻「」 (がすわらぬ
㊶図「」 (に乗る
㊷「今日のチェック」
 一の「音をあげる」の「音」は「ね」と読む。
 二の「終止符を打つ」「活をいれる」を「終止符」「喝」と書かぬこと。

三、
①とりあつかいに困る。
 もてあます。
㊱値段が高いのにおどろくさま。
㊲気持ちが落ちつかない。
㊳損にならないようにうまくたちまわる。
㊴ごくわずかなたとえ。
㊵幸運をあてにすることをする。
㊶とるべき方法がない。
㊷だしぬく。
㊸くどくどとささく言う。

- 四、
㊰きっかけをつくる。
㊱うっかり言う。
㊲えらそうにふるまう。
㊳するどい目をしておこる。
㊴十分に行きとどいた世話をするさま。
㊵ひとところに落ちついていない。
㊶いい気になる。つけあがる。